

北アルプス 鹿島槍ヶ岳東尾根

小暮

【日時】 2014年4月19日(土)～20日(日)

【メンバー】L小暮、佐藤(里)、松本

鹿島槍ヶ岳東尾根は、なぜか計画をするたびに天気や仕事の都合で中止が続き、なかなか行くことができないルートだった。今回、直前で笹川が体調不良で不参加となってしまったのは残念であったが、それぞれこのルートへの思い入れのあるメンバーと共に登ることが出来て、心に残る素晴らしい山行となった。

日曜日に崩れるという天気予報は、直前には雨の到来が遅れて、日曜日の夕方までは天気が持ってくれそうだ。前夜に大谷原の駐車場に入って前泊。初日の行動は短いので、朝はゆっくり寝ていようと就寝したのだが、早朝にやってきた学生がテント脇で大声を出して体操を始めたので、予定よりも早い時間に起こされてしまった。

東尾根への取付きは林道を少し進んだところで、雪の多そうなところを狙って登っていくが、やはり下部は藪っぽい。しばらく登ると先行パーティが居て、トレースも出てきて歩きやすくなった。特に困難なところもなく、他パーティと前後しながらよく締まった雪を踏んでいく。一ノ沢の頭の手前付近から、尾根が細くなってきたのでアイゼンを着ける。次第に足元の雪が腐って滑るようになり、慎重に進んでいく。二ノ沢ノ頭直下の細い尾根のトラバースで、松本さんから口



二ノ沢ノ頭より鹿島槍ヶ岳



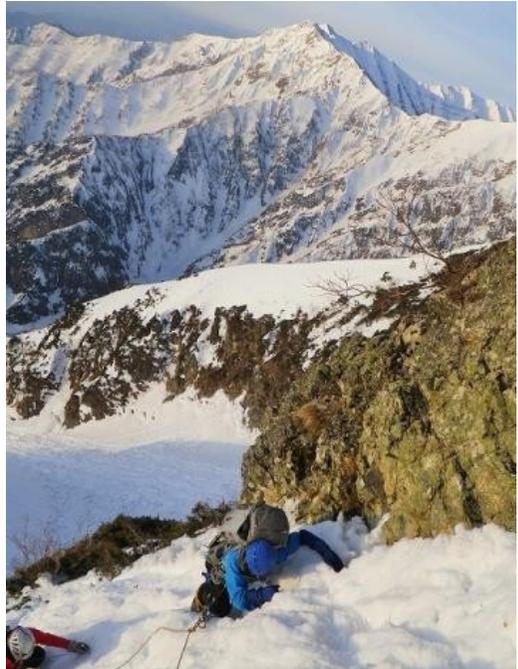
のんびり過ごすBCは抜群の展望

ープが必要かもというので、私が様子を伺い「大丈夫そうだ」と伝えるが、「小暮さんが言う大丈夫は、難しいかもしれないので信用ならない」と言われ、各自ハーネスを付けロープを準備するが、結局、必要ないことが分かり、そのまま通

過できた。

二ノ沢の頭には、予定より早く12時10分には着いてしまったが、既に先行1パーティはテントを張る準備をしていた。

我々も、第一岩峰の基部まで登ったところで、明日早出すれば同じことなので、今日はここまでにすることになった。BCは風も無くて暖かく、展望も良いので外で宴会とする。この広い幕場には、他パーティも含めて5パーティが幕営し、北アルプスの人気ルートらしい賑わいであった。



第1岩峰は容易だった

翌朝は、2時起きの4時出発。私はそんなに早く行かなくてもと思ったが、サトリカさん、松本さんも岩場での順番待ちや夕方から天気が崩れることを懸念して早めに行きましょうということになった。他パーティよりも早いだろうと思っていたが、皆考えることは同じなのか、我々が3番手で全パーティ早出だった。一番早いパーティは1時過ぎには起床したらしく、私達が出発するころには第2岩峰のあたりにヘッドランの明かりが光っていた。

第1岩峰までは、アップダウンのある稜上を左手の斜面からトラバースして、更に雪壁を登っていく。トレースはばっちりついているが硬雪なので慎重に一步ずつ登った。第1岩峰の基部につくと、ちょうど先行パーティのトップが登っている最中だったのでしばらく待っていると、後続のパーティもやってきた。

後続のガイドパーティは、階段状の岩場を直登する先行パーティの右脇の雪壁から、さっと登って行ってしまった。我々も、ガイドパーティの登ったルートからロープを伸ばす。1ピッチ目は小暮が登って50m一杯になったので、灌木でピッチを切る。その先も急斜面なので2ピッチ目はサトリカさんリードで20m程ロープを出した。第1岩峰は雪の斜面といった感じでさほど困難なところもなく、あっさりと抜けることが出来た。

その先は、しばらく雪稜を登ると第2岩峰の基部についた。ここも、先ほどの先行パーティのトップが登り始めたところなので、しばらく待つ。チムニーの部分でトップがなかなか抜けられず、最後は途中でザックをデポして空荷で上へと抜

けて行った。先行パーティのセカンドが登り始めたので、すぐ後から取付く。セカンドがトップの残したザックを持ってあがるのは困難そうだと予想した通り、チムニーの部分で困っているのので、私が後ろから荷揚げを手伝うことを提案し、2回ほど荷揚げを繰り返して上に抜けた。私もすぐ後ろから、ついていく。チムニーの部分は、足をかけるところが乏しいが、手はガバナなので落ち着いて登れば問題なかった。松本さん、サトリカさんもそれぞれ、苦勞して登ってきた。第2岩峰を抜けると鹿島槍ヶ岳北峰のピークについた。周囲の展望が素晴らしい。

北峰からいったん鞍部に降りて、南峰への登山が苦しい。雪壁を登るのがきついで、夏道通しに登っていく。冷池山荘へ下降路は、風で雪が飛ばされていて夏道がほとんど出ている。アイゼンを外して、一気に小屋まで降りて大休止した。ここからの下降は、赤岩尾根が一般的であるが、状態が良ければ西沢を降りようと思っていた。赤岩尾根へは、トレースに沿って夏道通しに急な雪の斜面をトラバースしていくが雪が腐っていて滑りやすいので慎重に進んだ。西沢の源頭を見れば、トレースもありどうやら沢沿いに降りられそうなので、急斜面をバックステップで降りる。雪がぐずぐずに腐っていて歩きづらい。シュルントが開いて



ルート核心の第2岩峰

いる箇所があるが、なんとかこなしデブリの山の中を下降する。雪の反射光に囲まれて、暑くてたまらない。尾根を下るよりも早いのだろうが、暑さと時折もぐって足を取られる雪に閉口しながら下降を続けた。林道終点に着くころにはへとへとであった。後は、ふきのとうを探しながら駐車場へと戻った。

鹿島槍ヶ岳東尾根に行こうと思ってから、10年近く経ってようやく行くことが出来て大変良かった。今となってはそれほど厳しいグレードではなくなってしまったが、岩と雪のミックスした手頃な楽しいルートであった。

【行程】

- 4/19 大谷原(7:20)～一ノ沢ノ頭(11:00)～二ノ沢ノ頭c.1 (12:10)
- 4/20 c.1 (4:05)～第一岩峰(5:10)～第2岩峰(6:40)～順番待ち(7:10)～鹿島槍ヶ岳北峰(8:55)～南峰(9:35)～冷池山荘(10:55/11:10)～冷乗越

(11:30)～西沢～赤岩尾根取付(13:20)～大谷原(14:20)

【地図】神城、十字峡



北峰直下の雪稜





鹿島槍ヶ岳概念図

